

第7次八戸市総合計画の将来都市像について

第7次八戸市総合計画の将来都市像については、第6次八戸市総合計画の将来都市像を継承することを提案する。

ひと・産業・文化が輝く 北の創造都市

<現行の将来都市像を継承する考え方>

- ①「ひと」「産業」「文化」というキーワードは、現在の八戸市の地域特性を的確に示している表現であること
- ②「北」は八戸市の地理を分かりやすく表現し、「創造都市」は産業や生活文化などの様々な分野において新たな価値を創り上げる都市を目指すという当市の姿勢を的確に示している表現であること
- ③現行の将来都市像は、平成28年度を起点に10年程度先を見据えた八戸市の将来像を表現するフレーズであり、周知開始から4年目を迎え、今まさに認知度が高まっている途中であること

(参考) これまでの総合計画の将来都市像と運用期間

	将来都市像	運用期間	通算
第1次	住みよい、生きがいのある総合的産業都市	S46～S52 (7年間)	26年間
第2次	住みよい、生きがいのある総合的産業都市	S53～S60 (8年間)	
第3次	住みよい、生きがいのある総合的産業都市	S62～H09 (11年間)	
第4次	人・産業・文化のフロンティア都市	H10～H18 (9年間)	9年間
第5次	海と大地が響きあう 北の中核都市	H19～H27 (9年間)	9年間
第6次	ひと・産業・文化が輝く 北の創造都市	H28～R02 (5年間)	5年間